

令和 4 年 9 月 14 日現在

機関番号：31309

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02698

研究課題名（和文）「深い学び」を目指した高等学校国語科における教材モデルの開発と授業メソッドの提案

研究課題名（英文）Development of the Model of Teaching Materials and Suggestions for Teaching Methods Related to Japanese Language for Senior High School Aimed at Deep Learning

研究代表者

高橋 正人（Takahashi, Masato）

仙台白百合女子大学・人間学部・特任教授

研究者番号：00809189

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：新学習指導要領の趣旨を生かした理論と実践との往還的な検証を行う中で、既存の教材にはない多層構造を有した新たな教材モデルの提示を目指した。具体的には、第一層にあたる教材本文に加え、第二層として思考の変容過程を示した教材を提示し、教材の生成過程を可視化し明示するとともに、思考の生成過程そのもののプロセスを追体験することが可能となる方途について研究を進め、第三層として教材における言葉に着目して本文の底流に流れている思考の枠組みの構造や他の言語に翻訳されている教材作品を提示し、プレテキスト及びメタテキスト等の複数テキストを基にした多角的な視野に立った思考の在り方を解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新学習指導要領では、すべての学習の基盤となる資質・能力の一つとして、言語能力が挙げられている。見方・考え方を働かせた「深い学び」を実現する上でも、他者の考えと自分の考えを吟味したり検討したりすることを通して、自分で新しい考えを生み出すという創造的に考える力を育てるための具体的な方略が求められており、主体的に思考し、判断し、表現する上で、考えの形成がいかになされるか、考えの形成にはどのような方略が求められるのか、さらには、考えの形成に資する認知的な枠組みの形成に対する可能性を示すことができたことが学術的・社会的な意義である。

研究成果の概要（英文）：According to the research, we have got the system of the skills for deep thinking. So we have got the text based on multi-layered text. Our system is considered the solution for the problem of the process of thinking.

研究分野：国語科教育

キーワード：深い学び 思考力 判断力 表現力 創造性 複数テキスト マルチレイアードテキスト

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者は、これまで、思考に関する論考を基に、高等学校国語科における思考の在り方及びその深化について研究を進めてきた。新学習指導要領における思考力・判断力・表現力の育成を具体化するとともに、高等学校卒業後の大学初年次教育や実社会において「深い学び」を実現するためには、内容知と方法知との双方に資するとともに、自ら問いを発見・生成し、その問いを深める中で知の刷新・発見を伴った学びの深まりを得ることができる具体的な教材モデルと授業メソッドの開発が必要であるとの認識に至った。

(2) 併せて、大学入学共通テストにおいて、思考し、判断し、それらを表現する力を育成することが、人口減少や AI などの急速な進歩、科学技術の進展など複合的な課題克服が求められている社会においてよりよく生きていくために必要な課題であるとの認識の高まりが背景にある。

(3) 高等学校国語科教材については、現代的な課題を扱ったものも多いが、教材で扱われている課題がどのような課題意識や思考過程を経て表現されているかについては、明らかにされていないのが現状であり、多層構造を有する教材開発のための研究が待たれている。

### 2. 研究の目的

(1) 新学習指導要領の下、高等学校の国語科授業においては、主体的に思考・判断・表現する資質・能力を育成するため、これまでの伝達型の知の在り方から脱し、創造型の知の在り方への転換を図ることが求められている。

(2) 本研究は、高等学校国語科において、思考過程の系統的・体系的な構造化を図り、「深い学び」を実現するための新たな教材モデルと実践的な授業メソッドの開発を行うことを目的とする。

(3) 具体的には、従来の単層構造の教材にはない思考過程における発見や知の刷新並びに思考による知の枠組みそのものの変遷のプロセスを可視化し、生徒自身が自らの知の在り方を問い直し、思考の在り方を創造的に捉え、知のパラダイム転換を図る契機となる多層構造を有する教材の開発を行う。併せて、それらの教材を基に既存の見方・考え方を超えた新たな知の地平を切り拓いていくアウトプットを意識した創発型授業メソッドを開発し、高等学校国語科授業の根本的な転換を図る。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、情報の収集、構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有という学習指導要領で提示されている思考の過程を踏まえ、発見を伴った「深い学び」の形成過程に焦点を当てながら、深い学びを可能とする新たな教材モデルとそれらを用いた実践的な授業メソッドの開発を行う。

(2) 開発に当たっては、小・中・高・大の学びの系統性を踏まえるとともに、高等学校段階を中心に社会人として必要な知の在り方に結びつく総合的な思考力の育成を目指す。

### 4. 研究成果

(1) 学習指導要領で提示されている思考の過程を踏まえ、発見を伴った「深い学び」の形成過程に焦点を当てながら、深い学びを可能とする新たな教材モデルとそれらを用いた実践的な授業メソッドの開発に関する知見を得ることができた。

(2) 具体的には、まず、「深い学び」に関する理論的な背景について、学力に関する知見を基に、思考力の位置付けについて探るとともに、認知言語学における思考の枠組み等に関する研究の知見を深さの観点から分類し体系化した。併せて、高等学校における教材開発の観点から深い学びに資する教材の多層分析を行い、その成果を次の図書及び論考にまとめた。

・高橋正人(2020)『文学はいかに思考力と表現力を深化させるか 福島からの国語科教育モデルと震災時間論』(コールサック社, ISBN:978-4-86435-437-0)

・高橋正人(2020)『「文学国語」におけるアンソロジー教材の開発～是枝裕和「ヌガー」における世界の発見をめぐって～』(『言文』第67号, 2020, pp.32-47)

・高橋正人(2019)『少年の日の思い出』(Jugendgedenken)の多層構造分析に関する研究～「眼(Auge)」「指(Finger)」「箱(Kasten)」をめぐって～(『福島大学人間発達文化学類論集』第30号, 2019, pp29-44)

・高橋正人(2019)『小津安二郎監督『東京物語』の教材化に関する研究～高等学校「文学国語」における映像作品の可能性をめぐって～』(『福島大学人間発達文化学類論集』第29号, 2019, pp37-52)

・高橋正人(2019)『『論理国語』における深い学びを実現するために - 『読むこと』の学習における問いとパラダイムシフトをめぐって』『福島大学総合教育研究センター紀要』第26号、2019、pp.7-14)

(3) また、複数テキストによる学びの深さを探究し、次の図書及び論考にまとめた。なお、前者において、「お手紙」「モチモチの木」「海のいのち」を始めとする小学校教材、「少年の日の思い出」など中学校教材、そして、「ヌガー」「神様 2011」「東京物語」など高等学校教材までを含めて複数テキストを基にしなごら思考を深めるための具体的な方法と内容について記述し、高校生が主体的に学ぶことにより思考力・判断力・表現力を深化するためのヒントを掲載している。

・高橋正人(2021)『高校生のための思索ノート～アンソロジーで紡ぐ思索の旅～』(コールサック社、ISBN: 978-4-86435-503-2)

・高橋正人(2022)「アーノルド・ローベル『お手紙』における作品分析に関する研究 - 登場人物の思考の在り方と手紙の持つ機能をめぐって - 」(『仙台白百合女子大学紀要』第26号、2022、69-82)

・高橋正人(2022)「斎藤隆介『モチモチの木』における作品構造に関する研究 - 語り の特異性及び言葉のネットワークをめぐって - 」(『仙台白百合女子大学教職課程研究センター報』第1号、2022、5-12)

・高橋正人(2022)「石沢麻依『貝に続く場所にて』の分析と教材としての可能性について～重ね・トラウマ・断片・身体・声・持物をめぐって～」(『言文』福島大学国語教育文化学会、2022、2-17)

(4) 併せて、次の講義・講演等を実施し、実践的な授業メソッドの普及に努めた。

・桜の聖母生涯学習センター開放講座「立松和平『海のいのち』をめぐって」2022年6月11日土曜日、会場：桜の聖母短期大学

・桜の聖母生涯学習センター開放講座「宮沢賢治『やまなし』をめぐって」2022年9月10日土曜日、会場：桜の聖母短期大学

・令和4年度東西しらかわ地区小学校教育研究会夏の研究協議会国語科研究部講演「新学習指導要領を踏まえた授業づくり」2022年7月22日(金)、会場：福島県棚倉町文化センター倉美館

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 高橋正人	4. 巻 第68号
2. 論文標題 「『ごんぎつね』における 喪 と 贈与 に関する考察～フランス語訳Le petit renard Gonとの比較及び葬送儀礼を通して～」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『言文』福島大学国語教育文化学会編	6. 最初と最後の頁 22-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 太田孝・高橋正人	4. 巻 第32号
2. 論文標題 「芥川龍之介『羅生門』を核とした探究型授業に関する研究～高等学校国語科における言語活動を通じた「学び」の質の向上を目指して～」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『福島大学人間発達文化学類学類論集』	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高橋正人	4. 巻 第32号
2. 論文標題 「高等学校「古典探究(Advanced Classics)」における探究的な学びの深化に関する研究～「若紫」における視線・顔認識・フランス語訳・映像テキストをめぐって～」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『福島大学人間発達文化学類学類論集』	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高橋正人	4. 巻 第31号
2. 論文標題 「『文学国語』におけるマンガ教材の開発に関する研究～永島慎二『漫画家残酷物語』及び『黄色い涙』をめぐって～」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『福島大学人間発達文化学類学類論集』	6. 最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋正人	4. 巻 第67号
2. 論文標題 「『文学国語』におけるアンソロジー教材の開発～是枝裕和「ヌガー」における 世界の発見 をめぐって～」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『言文』	6. 最初と最後の頁 32-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋正人	4. 巻 第30号
2. 論文標題 「『少年の日の思い出』(Jugendgedenken)の多層構造分析に関する研究～「眼(Auge)」「指(Finger)」「箱(Kasten)」をめぐって～」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『福島大学人間発達文化学類論集』	6. 最初と最後の頁 29-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋正人	4. 巻 第29号
2. 論文標題 「小津安二郎監督『東京物語』の教材化に関する研究～高等学校「文学国語」における映像作品の可能性をめぐって～」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『福島大学人間発達文化学類論集』	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋正人	4. 巻 第26号
2. 論文標題 「『論理国語』における深い学びを実現するために - 『読むこと』の学習における問いとパラダイムシフトをめぐって」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『福島大学総合教育研究センター紀要』	6. 最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高橋正人
2. 発表標題 「国語科教材論」 ~ 『ごんぎつね』から『東京物語』へ~」
3. 学会等名 福島大学国語教育文化学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 高橋正人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 コールサック社	5. 総ページ数 384
3. 書名 文学はいかに思考力と表現力を深化させるか	

1. 著者名 高橋正人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 コールサック社	5. 総ページ数 386
3. 書名 『文学はいかに思考力と表現力を深化させるか 福島からの国語科教育モデルと震災時間論』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------